

皆さま、おはようございます。本日はお忙しい中、第 56 回同窓会総会にご出席いただき感謝申し上げます。少しお時間を頂戴して、昨年度の役員会の動きと今の課題についてお話させていただきます。

昨年この場に立ちました時は、閉学の発表のちょうど 2 か月後でしたので、この先どうなるのかと不安が大きかったことを思い出します。その後、役員会では、大学の変化の時に同窓会にできることは何かについて話し合いを重ねてまいりました。

まず第一に、在学生在が充実した学生生活を送れるように応援しようということになり、10 月には大学祭への支援を例年より増額して行いました。昨年は 4 学年揃って開催できる最後のチャンスでしたが、それにふさわしい盛大な大学祭となりました。食堂で開いた青谷会カフェには、ベビーカーを押した若い方から何十年ぶりに母校を訪れる方まで、例年にも増して多くの卒業生が集まり、先生方も交えて楽しい交流の一日となりました。

今年度も学生支援は引き続き行います。奨学金と学生生活充実支援を目的とした海星青谷会基金へは皆さまからたくさんのご寄付をいただいております。母校で学ぶ後輩を応援しようという皆さまのご厚志を、閉学までの 3 年間で確実に学生へ届ける所存です。今年度は従来と同窓会奨学生 2 名への奨学金給付に加え、学生購買部の運営維持費などへの支援を行います。どうぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

次に新しい試みについてご報告いたします。閉学後に校舎がどうなるのかは気になりますが、まだ見通しが立っていないと大学より伺っております。校舎が使えなくなると、今日のように集まることも難しくなるかもしれません。そこで、今後 3 年間、授業のない土曜日の校舎をお借りしてイベントやサークル活動を行い、卒業生に大学へ戻ってきてもらおうという企画を立てました。もう一つの狙いは、この企画をとおして結ばれた卒業生の繋がりが閉学後も続いていくことです。会報アルムネーに同封したチラシに掲載しましたとおり、イベント第一弾は、ジュートバッグへのデコパージュレッスンとヨガレッスンを行いました。どちらも 20 代から 70 代と幅広い年代の卒業生が集まり、作業を助け合ったり、在学中の思い出話をしたりでとても楽しい時間を過ごすことができました。同時に募集しましたコーラスサークルは、元グリー部の方を中心にコーラス未経験の方も含め、現在 22 名で月 2 回練習を重ねています。その成果は 10 月 26 日土曜日の大学祭でご披露する予定ですので、ぜひ聴きにいらしてください。

では、最後に同窓会の今後の課題として役員会で話し合っていることについてお話いたします。先ほども申し上げましたが、閉学後も同窓会は続くのが皆さまの一番の関心事ではないでしょうか。結論から申し上げますと、もちろん継続いたします。むしろ、大学の実体がなくなれば、より一層同窓会の存在は重要になると考えております。

しかし、継続していくためには、資金・運営する人材・活動場所の 3 つの問題があります。

まず資金についてです。今年度から学生募集停止となったため、同窓会の終身同窓会費収入はゼロとなり、今後は現在の繰越金を取り崩しながら同窓会を維持していくことになります。私たち役員も交通費など、自分たちにできる範囲の経費削減には努めておりますが、最も大きな支出は会報アルムネーに関することです。発行・配送に関わる費用は年々値上がりしており、130 万円を超えています。また、せっかく発送しても住所変更届を出しておられない方が多く、今年は 157 通が宛先不明で戻ってきてしまいました。アルムネーは卒業生と同窓会をつなぐ重要な役割を担っております。忘れていてもご自宅に届いて、ゆっくりとご覧いただける紙ベースならではの利点も承知しております。しかし、支出を減らすことだけを重視するならば、将来的には青谷会ウェブサイトにて会員限定ページを設けて、その中でアルムネーをご覧いただく方法も選択肢のひとつになるかもしれません。

支出を生じる活動を控えてでも同窓会を少しでも長く維持していくべきか、あるいは維持できる期間が短くなってもできる限り活発に同窓会活動を行うべきかは、判断に悩む難しい問題です。しかし、どちらの場合も、また資金があっても、活動を行う人材がいなければ同窓会は成り立ちません。毎年申し上げておりますが、役員探しには本部支部ともに苦労しております。仕事・子育て・介護と皆さま何らかの事情がありますが、どのような方でも参加しやすい役員会の形を模索する必要があります。

海星青谷会は設立から 55 年間、先輩方のボランティア精神に支えられてきました。この海星らしい伝統は今の役員にも受け継がれていますが、時代や社会環境の変化とともに、すべてをボランティアに頼ることに無理が生じています。これからは、同窓会の様々な仕事を、専任の事務員に有償で委託する仕事と、役員がボランティアで行う仕事に振り分けていく必要があると考えています。支出を減らす工夫をしながら、一方で有償化を考えることは矛盾しているように見えますが、個人の負担が減ることで結果的に同窓会に関わってくれる卒業生が増えるというメリットが期待できます。

本日の総会は、初めての方を含め大勢の皆さまにご出席いただいております。この貴重な機会に皆さまのお声を伺いたく存じますので、ぜひ、アンケートにご協力をお願いいたします。

今日は青谷会について、明るい話題だけではなく、かなり踏み込んだ内容までお話をさせていただきました。難しい問題はたくさんありますが、今年度も役員一同、同窓会活動に真摯に取り組んでまいりますので、どうぞ引き続きご理解ご協力賜りますようお願い申し上げます。ありがとうございました。